

平等寺だより

二重の塔落慶

丸子孝法

編集発行
 ☎633-0001
 桜井市三輪 38
 三輪山平等寺
 TEL/FAX
 0744-42-6033
<http://www.geocities.jp/byoudouji/>



科学技術の発達により豊かで便利な時代を迎えました。自己中心の人間欲望もかぎりなく増大し、

テロや戦争、凶悪な犯罪等、まことに悲しいかぎりです。お釈迦さまは、「まよいを超越し、うれうることな

く、むさぼることなく、こころ清らかなることが人間最高の生き方である」(法句経四一一)と示されました。むさぼりといかりと愚痴が戦争をもひきおこすのです。昨年(八〇〇年)ぶりに二重塔・釈迦堂が再建落慶を迎え、山門の解体修理、庫裡の屋根替え工事も無事終了しました。おかげさまで。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



釈迦堂の再建の御礼

中興八〇〇年記念の二重塔、釈迦堂の再建が多くの英博物館所蔵の世界最古の方々のあたたかいご奉賛、ごお釈迦さまのスケッチ画を協力のもと八月一日落慶をもとにして製作された生身迎えました。丁度十年後はおの釈迦像を塔の内部中央に釈迦さまの二五〇〇回忌にまつることができました。あたりますので、お釈迦さまとは、この上ない法幸であり、対しての報恩謝徳の再建ます。

特に再建を担当いただきが、お釈迦さまのみおしえのました瀧川寺社建築さまに耕心の道場として平和な安は室町時代の平等寺境内古らぎの場となり、更に、「三図の中にえがかれている二輪清浄・一相平等なるが故に重塔から設計図を作成し最三輪山平等寺と改む」と宣せ高の技術と誠意をもつて後られた慶田上人のみこころ世に残るみごとな二重塔をもと清らかで平等なる世建設ねがいました。また、みの中をつくる道場として微やご大仏堂さまにはご本尊力ながら一躍をになうことの生身の釈迦像を、ガンダーを願ひ、落慶の挨拶をいたしラ石彫工芸さまには仏足石ます。の復元をいただき、誠にありがたいご法縁であります。

塔はサンスクリット語のストウ・パのことで、仏舍利を安置する建造物のことです。古来仏教徒の信仰の対象はこの塔と仏足石でした。今回の再建に当り、旧インド



のダルマラジカ寺より伝来の仏舍利と平等寺に伝わるの英博物館所蔵の世界最古の方々のあたたかいご奉賛、ごお釈迦さまのスケッチ画を協力のもと八月一日落慶をもとにして製作された生身迎えました。丁度十年後はおの釈迦像を塔の内部中央に釈迦さまの二五〇〇回忌にまつることができました。あたりますので、お釈迦さまとは、この上ない法幸であり、対しての報恩謝徳の再建ます。

これからも三輪山平等寺



大神神社 鈴木宮司様ご祝辞



本尊 釈迦牟尼仏



曹洞宗 第三教区長
葛城老師ご祝辞



参詣の皆さまと共に・・・



復元された仏足石



(株) 瀧川寺社建築
国樹社長に感謝状贈呈



岡本総代 お礼の挨拶



丸子住職 お礼の挨拶



北インド古典音楽コンサート



三輪山 平等寺 最勝会並釈迦堂・二重塔落慶法要記念 平成十六年八月一日厳修

日曜参禅

和田 隆之

私が桜井に引越してきて十年余りになる。最初知り合った地区の老人会会長が、自分も人に誘われて始めた参禅に私を誘いこんだ様な具合だった。勿論平等寺も丸子孝法師も知らなかった。そのころ私は六十八歳ぐらいだったと思う。ようやくこの年になって物事を前向きに考え、何によらず積極的であったので応じた。それが禅に接した始まりであった。丸子師との出会いが私の精神に何らかの影響があったと思う。師がこれ迄歩んでこられた種々な話も伺い、深く尊敬する様になった。師を知るにつれ、日曜日は三輪の平等寺に行かなければ何か気分的にその一週間が後ろめたい様な気分になり、日曜参禅で一週間が始まる。これが私の日々の生活になっている。私が気に入っている

のが禅の教えである。あの堅苦しい姿勢で壁面に向かつて坐し修養するとか苦行するのではなく、あの姿が釈迦が悟りをひらいたときの姿であり、科学的にも脳派が一番安定する人の姿勢だと教えられた。苦行するためでもなく禅をしていく姿そのものが仏に近づくのであり、坐禅そのものが尊いのである。それによって種々なものを得ようなどはもつての外だと。今の様な科学技術の発達した目まぐるしい時代、自分というものを放りだして大宇宙の中の一環として無心で静かな一刻を持つことは、現代人にとっては大切な事だと思



う。「忙しき世であればこそ一刻を日曜参禅の静にひたしぬ」
『りゅうぎん』第九十五号より抜粋

梅花通信

十一月十九日に毎年恒例の「奈良県梅花流詠讚歌奉詠大会」がありました。今回の参加者は、丸子妙幸さん、後岡繁子さん、辻本英子さん、日浦愛さん、岡本澄子さん、師岡真由美さんでした。今年も皆さん上手に奉詠されていました。



三輪の市開かれる

昨年も盛大に開かれた三輪の市が、今年も開かれます。ぜひおいで下さい。

作務の日

毎年恒例の作務の日に六十名に及ぶ有志の方々が、また一心講や日高産業の方達もご奉仕で掃除して下さいました。



東大寺で平和祈願

東大寺(華嚴宗)の大仏殿で十一月十一日、東大寺及び南都二六会の老師方と曹洞宗の若手僧侶ら百三十名が大般若法要をとめ平和を祈念しました。

永平寺参拝

六月三十日からの本山研修会に辻本年夫さんと英子さんが参加しました。

被災地へ

台風の影響により河川が氾濫し被害を受けた豊岡へ、奈良県曹洞宗青年会からボランティアに行きました。また、上北山村にて歳末たすけあい托鉢をさせて頂きました。

子供坐禅の集い

今年は七月二十七日から一泊二日であります。小学生高学年を募集します。

研修道場報告

空手道M A C奈良支部の道場生が大活躍。前田篤秀が新極真奈良県交流試合で優勝。台風の中おんぱら祭に三十八名が集まり、演武会もやりました。また今年からカイロプラクテック院が始まります。



法話

「ありのままの命にカンパイ」

これは、重度の身体障害者である遠藤 滋さんの命の叫びです。

遠藤さんは、東京の世田谷にお住まいですが、重度の身体障害を持って、この世に生まれました。足で字を書き、立教大学を卒業し、養護学校の先生になった努力と根性の人です。ところが、障害が重くなって、数年前からはベッドに寝たきりの生活になりました。

遠藤 滋さんのもとには多くの若い人々がボランティアとして集まってきます。驚いたことに、その数が今日に至るまで延べ1000名を超えたのです。

その記録映画『えんとこ』が発表されました。重度の身体障害を乗り越え

て、めげずに力強く生きようとする遠藤さん。介護のボランティアの光り輝く笑顔。遠藤さんに出会ってよかった。遠藤さんが障害を持つていなかったら、遠藤さんに出会えなかったと涙を流す若人。

ラストシーンは、ボランティアの若い男女にささえられ、まったく動くことのない遠藤さんが青い海に入っていく、一步一步踏みしめながら前進する感動のシーンでした。



道元禅師は、生かされている一瞬一瞬の私たちの命が実は仏の御いのちであると教えられました。だから生きることを嫌がっても、

生きることを欲張っても、仏の御いのちを失うことになると教えられたのです。

「人間は頂いたものが全部違う。顔も違えば、鼻も目も背丈もみんな違う。違うことが尊いのだ。違うとことが尊いのだ」と心の底から、からの命にカンパイ」と叫びました。欲張らず、嫌がらずありのままの命をいかして生きる。ありのままの命にカンパイ。



年間行事予定

【一月】

一〜三日 修正会

【二月】

十日十三時 初護摩会

三日 十時 星祭会

十五日 七時 涅槃会

【三月】

中日十四時彼岸会

【四月】

三日 十時 大護摩会

(花祭り降誕会)

「ちい」おねり」募集

【五月】

三輪の市

【七月】

上旬 本山研修会

中旬 作務の日

下旬 子供坐禅の集い

【八月】

一日 九時半 最勝会

平等寺護持会総会

【九月】

十三時 地藏会

【十月】

中旬 梅花大会

【十一月】

三輪の市

【十二月】

一〜八日 朝六時

撰心会並びに成道会

上旬 歳末托鉢行

二十一日十四時 終護摩会

三十一日 除夜の鐘

月間行事予定

一・十五日六時 祝祷朝課

四〜二十九日 月仏参

十八日十三時 梅花講

二十四日十四時 水子供養

二十八日十四時 護摩会

(一月は上記参照)

日曜日六時半 坐禅会



まるが行く⑤

八月に急に食欲がなくなったら病気だったワン。手術をして皆の温かい看護のおかげで元気がでてきたワン。皆、例外なく生まれ年とって病気になるって死んでいく……。かけがえのない命だワン。

三輪山裏

去年は台風に地震と、さまざまなことがありました。被災者の方達を思い、皆ができる範囲で手を取り合って、辛くてもくじけずにがんばっていきましよう。まだまだ寒さは続きます。どうぞご自愛下さい。合掌。編集子 孝仁記